夏休み
サマーコンサート

SUMMER CONCERT
SUMMER CONCERT
SUMMER CONCERT
SUMMER CONCERT
SUMMER CONCERT
SUMMER CONCERT
SUMMER CONCERT

'71新響サマーコンサート

THE NEW SYMPHONY ORCHESTRA SUMMER CONCERT

指揮　芥川也寸志
Yasushi Akutagawa
Conductor　小林研一郎
Ken-ichiro Kobayashi

PROGRAM　曲目

.I　Stage of March!　March!　March!　指揮：芥川　也寸志

◇行進曲「旧友」……カール　タイケ
March "Alte Kameraden"…… Karl Teike

◇結婚行進曲――「真夏の夜の夢」から……フェリックス　メンデルスゾーン＝バルトルディ
"Hochzeitmarch"――aus "Ein Sommernachtstraum"…… Felix Mendelssohn - Bartholody

◇軍隊行進曲……フランツ　シューベルト
"Marche Militaire"……Franz Schubert

◇行進曲――バレエ組曲「くるみ割り人形」から……ピーター　チャイコフスキー
March from "Nutcracker (Danses Characteristique)"…… Peter Tschaikowsky

◇軍隊行進曲「威風堂々たる陣容」第1番……エドワード　エルガー
"Pomp and Circumstance" No.1…… Sir Edward Elgar

II.　Stage for Young Persons　語り手：芥川　也寸志　指揮：小林　研一郎

◇"青少年の管弦楽入門"――パーセルの主題による変奏曲とフーガ　作品34……ベンジャミン　ブリテン
The Young Persons' Guide to the Orchestra……Benjamin Britten

III.　Stage of Arabian Nights　指揮：芥川　也寸志

◇交響組曲「シェーラザード」　作品35……ニコライ　アンドレイビッチ　リムスキー＝コルサコフ
Symphonic Suite "Schèhèrazade"…… Nikolay Andreyevich Rimsky-Korsakov

第1楽章　ラルゴ　エ　マエストーソ　海とシンドバッドの船
1st. mov.　Largo e maestoso

第2楽章　レシト　レント　カランダル王子の物語
2nd. mov.　Recit Lento

第3楽章　アンダンティーノ　クワジ　アレグレット　若き王子と王女
3rd. mov.　Andantino quasi Allegretto

第4楽章　アレグロ　モルト　バグダッドの祭，海，青銅の騎士のある岩にての難波，終曲
4th. mov.　Allegro Molto

1971年8月10日（火）午後7時　東京文化会館大ホール

——音楽監督・常任指揮者——

芥川也寸志

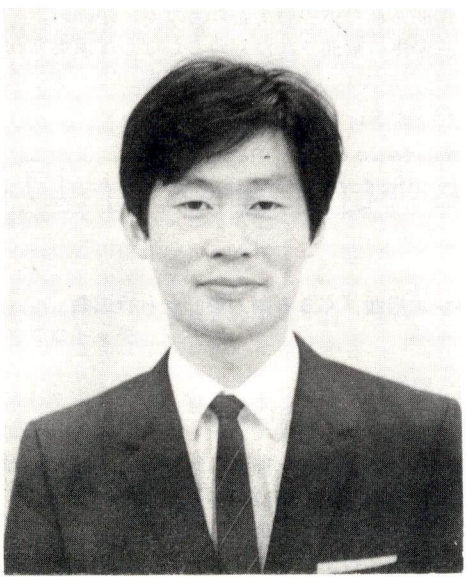
Yasushi Akutagawa

1925年7月　大正文壇の巨匠竜之介の三男として東京に生れる。
1948年　東京音楽学校（現東京芸大）在学中、「交響三章」をN響で初演。カラヤンの注目をうけ欧州楽壇に紹介される。
1953年　クルト・ウェス指揮ニューヨークフィルにより、弦楽のための三楽章「トリプティク」初演。
1954年　団伊玖磨、黛敏郎とともに「三人の会」結成。
1955年　ブルーリボン映画音楽賞受賞。
1966年　第2回日ソ青年友好祭実行委員長。ソ連、中国、欧米、インド、朝鮮、ベトナムを歴訪。
現　在　日本作曲家協議会副会長、日本現代音楽協会会員。

＜作品＞交響三章、トリプティク、交響管弦楽のための音楽、交響曲第1番、エローラ交響曲、オスティナート・シンフォニコ、チェロ協奏曲。

1956年新響発足以来の常任指揮者であり、1969年音楽監督就任、1968年には合唱団“鯨”を組織するなど、アマチュア界に於る貴重な指導者でもある。





——指　揮　者——

小林研一郎

Ken-ichiro Kobayashi
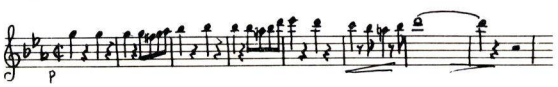
東京芸術大学作曲科卒業後、同学指揮科に入学し卒業。
指揮を山田一雄、渡辺暁雄に師事。
第2回民音指揮者コンクールで奨励賞受賞。
日本指揮者協会所属。
東京音楽大学指揮科講師。
1969年群馬交響楽団定期でデビューし、その明快な指揮はアマチュアオケや合唱団でも好評。東大オーケストラ、ＯＢ交響楽団、楽科大学合唱連盟、合唱団“鯨”を指揮。
新響は、本年4月から正式に指揮者としてお願いしていて、先日のレクイエムに続き2度目。本格的なおつき合いは来年度からということになりそうである。

曲目解説

行進曲「旧友」　　タイケ

カール・タイケは19世紀末の行進曲中の「旧友」ただ一曲で音楽界に名をとどめたドイツ人で、わが国では、彼の名は余り知られていないが、この行進曲「旧友」はわが国でも吹奏楽曲として頻繁に演奏され、よく知られた曲である。

曲は短い導入部の後に、力強い線の太い旋律が剛健なリズムに乗って始まり、更に一層太い対立旋律と主旋律がかけあい雄渾で堂々とした主部を形づくる。　突然、曲は静かに落つちいた温か味のある、旧友を懐しむ回顧とでもいえる歌うような旋律の中間部へ入る。　堂々としたリズム、端正で変化に富む形式の中にドイツ人の国民性を豊かにもった曲であり、19世紀末の作風と趣味とに色濃く彩られた行進曲である。



結婚行進曲　　メンデルスゾーン

5幕の喜劇「真夏の夜の夢」はシェークスピアの円熟期1595年の作品である。

この戯曲の筋は、アマゾン族の女王ヒッポリタの婚礼の夜、アゼンス郊外の森で4組の結婚愛が成立すると言う3つの幻想的な物語から成っている。

第1は、妖精のパックが恋の媚薬浮気草と呼ばれる魔法の草の汁をふりまき過ぎたために大混乱が起るが、それも夏の一夜があけるとメデタシメデタシ。

第2は、妖精の王オベロンとその妃タイタニーアの夢幻的な世界。

第3は、大公の結婚式の余興に出演する狂言の練習に来ている6人の職人達の写実的笑劇の世界。

メンデルスゾーンはこの戯曲を題材として劇音楽を作曲した。今日、「真夏の夜の夢」と呼ばれる場合、シェクスピアの戯曲とメンデルスゾーンの音楽が同時に考えられる様になった。それ程この音楽は傑出している。

序曲は17才の1826年に作曲され、他の12曲の劇中音楽は1843年、プロシャのフリードリッヒ・ウィルヘルム4世の命によって作曲され同年初演されている。

組曲としては、序曲、スケルツォ、間奏曲、夜想曲、結婚行進曲、野人の踊り（ベルガマスク舞曲）の6曲。

結婚行進曲Op.61 No.9は、劇中第5幕が始まり、アゼンスの公爵シーシェースとアマゾンの女王ヒッポリタの結婚式の場面である。3本のトランペットの力強いファンファーレによってマーチが始まる。中間部はパックと妖精のオベロン、その妃タイターニアを想わせる優美なトリオを経て再び主部にもどって堂々と終る。

今日、結婚式の行進にはワーグナーの曲と同様数多く実際に用いられている。



軍隊行進曲　　シューベルト
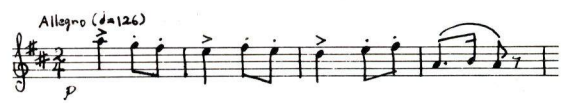
シューベルトは非常な多作家で、作曲がはやかったということは有名である。彼を音楽史のうえに位置づければロマンティシズム時代の作曲家とするのが正当であろうが、彼自身は自分の音楽に対する態度がハイドンやモーツアルトとどのように違ったかは自覚していなかった

この点については、楽才の豊富さと共にモーツアルトとよく似ている。しかし、モーツアルトの場合は、作曲は早くても一度楽譜に書かれると確固としたものになるのにシューベルトの場合は即興性、一過性が感じられそれが何となく頼りなく感じられる。

軍隊行進曲はそんな中の名曲であり、ピアノ連弾用に3曲作曲された中の第1番にあたる。作品51。

管弦楽用に編曲されたものもしばしば演奏される。

本日の演奏は、テオ・モーゼ編曲、セレディ改訂によるものである。
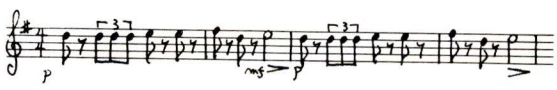


バレエ組曲「くるみ割人形」から行進曲　　チャイコフスキー

「くるみ割り人形」といえば、クラシック音楽の中でも最もポピュラーな曲で、チャイコフスキーを知らなくても、この中の曲の一曲位は知っているという程、いや、たとえこれが「くるみ割り人形」だとは知らなくてもほとんどの人の頭にしまいこまれてあって、これを耳にすれば一緒に口ずさむことができるような、これ程知名度の高い曲も他にはあるまい。　おそらくは多くの人がクラシック分野に手をのばした時、最初に買ったレコードの一枚であり、今では改めてじっくり聞こうなどとい

う気も起こらず、レコードボックスの奥に数年ほこりをかぶっているといったところだろう。　人は、あまりにも有名な曲というのは、かえって過少評価するもので、ましてやバレエ音楽とあっては、未知の名曲、内に秘む思想、真の美を求めようなどと通ぶったクラシック愛好家には脳裡の一片にとどめておくにすぎない様な曲かも知れぬが、かえって生演奏など、めったに聞ける機会のないものであり、この際じっくり聞いてみるのもまた楽しい。

このうちの行進曲は、第一幕で子供達がぞろぞろ登場してくるところで使われるものであり、クラリネットとホルンとトランペットが行進曲の始まりを告げる、第一第二Vn が嬉しそうにはねまわる子供をだし、この二つが交互にでて華かさを増し、チエロとバスが入りこの作曲の指定の「子供達の登場、そうぞうしいもの」そのものとなるのである。
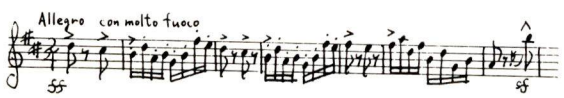


行進曲「威風堂々」　　エルガー

「威風堂々」とはエルガーの五曲の軍隊行進曲の総称であり、正式には「威風堂々たる陣容」と題されている。これは行進曲であるけれど、トリオの legato cantabile で奏される雄大で且つ民謡的な旋律の美しさは、弦に加わるほとんど全ての管楽器とパーカッション勢による華麗で正に堂々たる行進曲の主部とみごとな対照を形作っているのである。

当時、エドワード七世の戴冠式に際し、この旋律を戴冠式頌歌のうちにとり入れることを命ぜられたという事実からいかにこの旋律が人々を魅了し、喜ばせたかがうかがえよう。　構成の上からもこのトリオの部分は、最後に再び現れる点、多少異色を放ってはいるが、そうすることによりますます人々の心に深くやきつけられるのである。　こうした点でこの曲が、従来の行進曲の中に異彩を放ち、実用的要素と芸術的要素がたくみに結びつけられているのである。

新響の管弦器及びパーカッション総同員による陣営と芥川先生の正に「威風堂々」たる指揮ぶりは、それこそ「威風堂々たる陣容」そのものである。



青少年のための管弦楽入門　　ブリテン
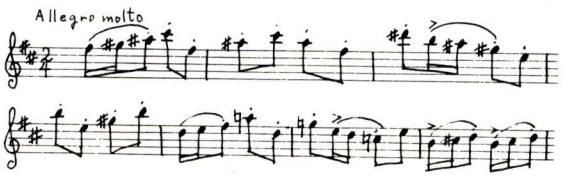
作曲者のベンジャミン・ブリテン（B. Britten）は現代イギリスを代表する作曲家で世界的作曲家の一人でもある。　１９１３年イングランドに生れ、幼少の頃からフランク・ブリッジに師事し、１９３０年に国際現代音楽協会、ザルツブルグ音楽祭等でその作品が演奏され広く認められ、現在に至るまで活潑な活動を行なってきた。その作品は室内楽、独奏曲、合唱曲、歌劇など数こそは少ないが、皆一流の充実した内容をもつものであるその作風は、この作品にみられるようにPurcell のようなイギリス古典の曲を素材とし極端なモダニズムをさけ構成的で堅実な対位法的音楽を意図している。　この曲の最後の素晴しい重厚なフーガはその良い例である。

さてこの作品は今からおよそ25年程前にイギリス政府の作った音楽教育映画の付随音楽として作曲された。教育映画としての特長は演奏と平行してエリック・クリツィア（E. Crozler）の筆なる解説が入るということである。　又、副題として“ H. Purcell„ の主題による変奏と“Fuga„と記されているように解説なしでも、しばしば演奏される。　曲は初めにH. Purcell の組曲“Abderazal”による主題（Fig. 1）がTutti で堂々と演奏され続いてその変奏が各々の楽器もしくは楽器群により様々



な組合わせにより演奏され打楽器群の変奏に続いて、Tuttiにより再び主題を奏してからFugaに入る。　ここまでの主題と変奏ではオーケストラの個々の楽器の形態、音色、機能を紹介している。　それに対し、後に続くFugaではOrch 全体の機能について又その管弦楽法についてデモンストレーションを行なっている。

Fugaはピッコロの主題（Fig.2）により始まり順次楽



器を加え更に初めの変奏の主題が金管に現われ、重厚でハーモニックな二重フーガを構成し、OrchのTutti により華麗な終結へと導びいていく。

新入団員の新響論と〈陰の声〉

何か2頁くらい書くように頼んだらこんなものを書いてきた。感想文としてはこれでもよいのだが、外の方には説明を要する部分あり、事実と多少異るところもあるので編集子の独断で陰の声をつけた。筆者の宮田さんは今年4月に入団したチェロ奏者で、今回の曲目解説の筆者でもある。歯学部の1年生。

新響の練習は、木曜日の午後6時半に始まる。これは、いわゆる予定であって私が入団して以来、一度も6時半に始まったことはない。＜彼の入団以前にも一度もない。＞

しかしそれは新響がだらしないオケだという訳ではない。＜どうせ6時半に行ってもセッティングを手伝わされるだけだからという不心得者がいるのもまた事実である。＞

新響は東京で超一流＜？＞のアマチュアオケの一つであり＜アマチュアオケではなくアマチュアのオケである。オケにはプロ、アマの区別はない。ただ構成団員がプロかアマかの差があるばかりである＞又その参加している団員も純粋の社会人や学生などのアマチュアである。社会人などは定刻通りに仕事など終る訳はないのである。練習ができる程度に人が集まるのはたいてい7時近くになっている。

たとえば某日、日頃の状態と少しも変らずに、7時にあと十何分という頃練習する雰囲気になっていた。芥川先生は6時半の定刻にいらして、その頃までAリハーサル室の隅で熱心にスコアーに何やら書きこんでおられた。時おり委員の方などが話しかけるが、そのたびににこやかに応待される姿が印象的である。＜気嫌の悪い日も多い＞

さてその日は6時50分頃先生は指揮台に立たれ、譜面台の角度を調節しながら右から左へ楽員の出席状況などを見回す、そんないつものスタイルで練習は始まる。

おもむろにコンサートマスターが立ってオーボエ奏者に「A＜新響ピッチ444Hz＞」の音を要求する訳だが、このへんはテレビで見る調律の方法と全く同じだが、テレビではもうすでに音は合わせてあるので、あれはいわばカッコウだけつけているのである。しかしこの場の新響は少々カッコウをつけるだけではすまない。皆ギリギリに来ているので、無論調律する暇などなく、その場を皆あてにしているのである。従って時間もかかる訳で、その日はその間、芥川先生は実に気嫌のよくない顔をして調律できるのを待っていた。そんな顔をされた日はたっぷりとしごかれるのである。その日もそんな顔をされたので一同もうこりゃアカンワーと思うのである。＜一向に動じない人も多い＞

新響はとにかくすごいテクニシャンぞろいである＜と自分で思いあがった団員がいるのは困ったことである＞。初見でも軽々ひいているような格好をする＜これは彼の新響3ヵ月の成果である。始めは本当にひいていると思ったらしい＞。しかし出てくる音はやはり初見の音である。その日が仮に初見の曲をやっていたとしょう。芥川先生はこの世の人とは思えぬやさしい目で一同を見回し、さかんに、初見だから曲を知るために軽く通そうといって皆の気持をほぐしてくれる。しかしその日が演奏会の間際で初見のような音を出したらどうだろう。＜仮定の話でなく、実にしばしばあることなのである＞　芥川先生は楽員をまるで、かたきを見るような目付きで見回し、小さな声で、実際聞こえないような声で「とにかく先へ行くか」と言って、又棒を振りだすが、すぐに止めて黒ぶちのメガネをすばやくはずし、あきれ困ったという顔をして大きなため息をつくのである。そして今度は少し怒った様な声で「もう一度」と言う。何回となく同じ所をやりなおさされ、そのうちにうまくなればよいが、最後まで、できないと「もうやらなくていいよ＜本番でも音を出すなということ＞」と言われてしまうのである。

確かにその点新響はきびしい。それも、演奏会を中心とした楽団である新響の行きかたの上に、はじめてありうることなのである。つまりアマチュアであることに甘えていないのである。新響の管楽器奏者はアマチュアでも粒よりの名奏者揃いである。＜かってはそうであったかもしれないが、アマチュアでは練習の絶対時間が特にものを言う。結果的には弦楽器の方が評判がよい＞だから芥川先生もそれだけ彼等に高度の音楽を要求する。又、そんな要求にある程度応えて先生を満足させるがそれがいつもとは限らない。ひとたび吹けないとしたらもうお互いケンカである。先生はいらいらしてイヤミを言うし奏者はふてくされてしまうのである。しかしそんな中に、信じられない様な音楽を通しての信頼の上に成り立ったコミュニケーションが存在するのである。それがアマチュア新響の最大の美点からしれない。＜とてもくすぐったく感じる。そうありたいと思っています＞

芥川先生と小林先生はいわばまるで対照的な指揮者であるが反面実に良く似たところもある。対照的なのは強烈な二大個性の故にあたり前だが、良く似た点というのは新響をアマチュアとして妥協して扱わないという所である。本当の音楽、自己を主張した音楽を新響に要求するのである。　＜アマチュアの能力と限界をご存知だと言った方がよい。前に外山雄三氏に客演願った際、彼は、結果的にはそうなるかもしれないが、はじめから妥協してかかる気はない、とおっしゃっていた＞

小林先生は練習中、間合ごとに「どうもありがとう」とていねいに言って終え、次へ進む。そして一見やさしそうな目で強烈ないやみを言う特技がある。たとえば、「どうもありがとう。そう、こんなところではN響なんか何も言なくてもピッタリと合ってくれるんですけどね、ではもう一度」といった調子である。又、小林先生は同じあやまちの繰返しを極度に嫌う。本気で努るのである。先生をやさしいと思い、あこがれていた＜お琴をひく奥様がいらっしゃいます＞女子団員などの小林先生感が根元から崩れるのもそんな時である。現在新響は、芥川、小林両先生の下で練習を重ねている訳だが、個性的な二人の棒の下での練習は非常にきびしい反面、実に愉快であるのも事実である。

新響が数あるアマチュアの中でも群を抜いた活発な活動と実績をあげているのには実は訳がある。それは、事務とマネージを司どる有能なメンバーがいるからである。信濃町に事務所を構え、夜遅くまで事務の仕事をしているのである。ただ新響を良くしたい一心で。凡人にはできないことである。新響は、芥川、小林両指揮者のもとに、有能な多くの器楽奏者と、献身的な事務の人々や委員の人々から成り立っている。それらのアンサンブルが新響の音楽にも実際よく反映しているのである。

私自身について言えば、そんな新響の誇りが鼻につきながらも私を夢中にしているのである。

＜年の若いわりに、入団間もない彼は実によく新響を見ている。しかも全てを好意的にその良い面から見るということは、凡人にはできないことである。
彼のこんな誇りを傷つけないよう先輩団員は、そのよい面を発揮するよう努力し、聴衆の皆様の暖い声援をお願いしたいと思います。＞



曲目解説

交響組曲「シェーラザード」　リムスキー＝コルサコフ
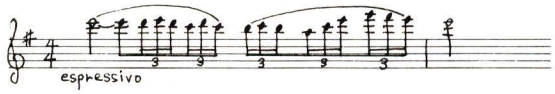
リムスキー＝コルサコフは、ボロディンの「イーゴリ公」のオーケストレーションをしていた１８８８年のはじめ頃、その東洋的な作風にヒントを得て、アラビアンナイトに取材した交響曲を書こうと思いました。　６月１日から24日までの間に全体のスクッチが完成し７月29日にはオーケストレイションも終わったことが、書簡からわかっています。

こうして書かれたシェーラザードは同じ頃の作品である“スペイン綺想曲”や“ロシアの復活祭”と共に、リムスキー＝コルサコフの国民楽派時代の代表作となっています。　そしてこの国民楽派時代はおわりをつげあと彼はワグナーに強く影響されることになるのです。

「シェーラザード」に作曲者はかなり自信をもっていたようで上にあげた二つの曲と共に、彼のオーケストレーションの一応の完成品と自ら言っています。
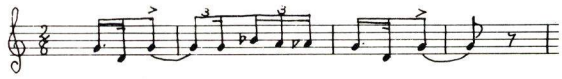
「シェーラザード」は４つの楽章からなっています。そのもととなったのはアラビアンナイトの中の「シンドバッドの冒険」とか「カランダル王子の物語」とか、「王子と王女」、「バグダッドの祭」、「黄金の騎士をのせた難波船」とかの有名な話です。

そして、1, 2, 4楽章のはじめの方と３楽章のインテルメッツォには話のイントロダクションとしてシェーラザードが王（サルタン）に語りかけている様子が全曲を通して、ソロバイオリンで演奏されます。同じメロディは全曲のしめくくりに、いちばん最後にもでてきます。



この曲の特徴として、いくつかの主楽想（ライト・モチーフ）が全楽章を通じて交互に、あるいは混ぜ合わされてあらわれてくることがあげられます。それは単に曲の展開だけのためにでてくることもあります。そして、それらがでてくるたびごとにちがった色彩、ちがった形式、ちがったムードをもっているので、同じモチーフあるいはテーマが毎回ちがったイメージ、ちがった場面をあらわすことになるのです。
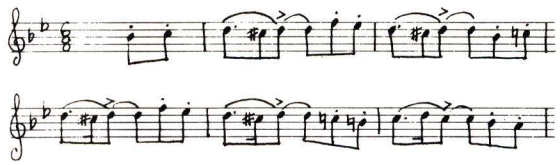
たとえば、２楽章の「カランダル物語」でミュートをつけたトロンボーンとトランペットによって演奏されるモチーフが、４楽章ではカランダルとは何の関係もない“難破船”の描写に使われるのです。



また同じく「カランダル物語」の第一主題



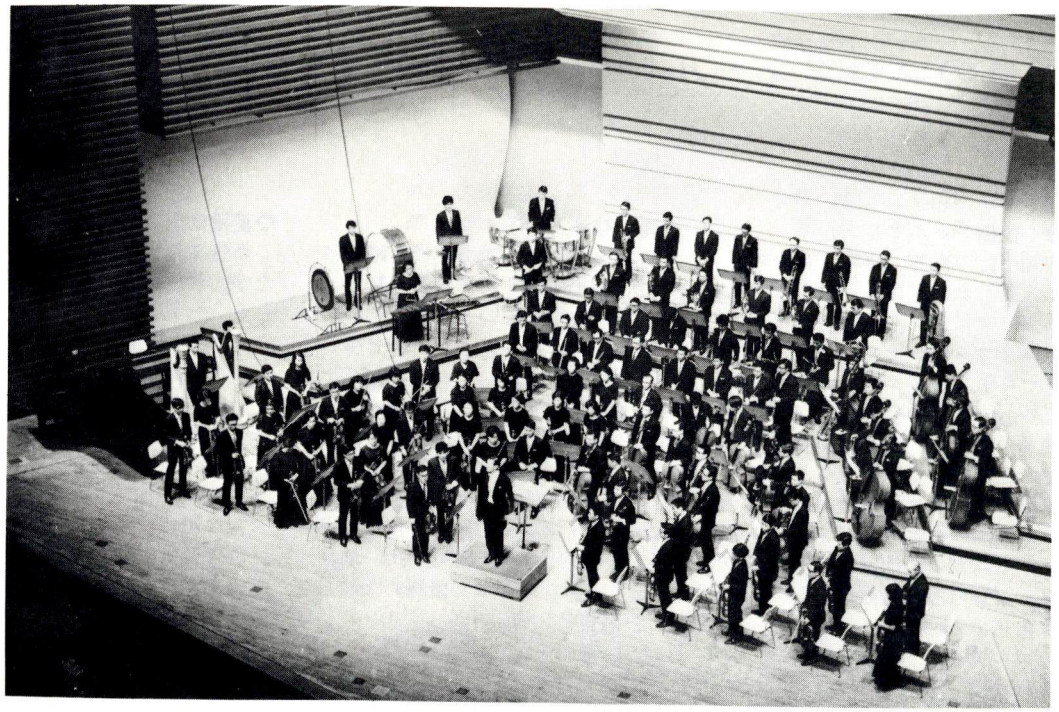
と、３楽章の王女のテーマ



は、彼等とまったく関係のない「バグダッドの祭り」の中に形をかえて、速いテンポで副主題としてでてきます。このことについては作曲者自身が「基本となる楽想を自由に発展させて、密接にむすびついた４つの楽章からなる、東洋的雰囲気の曲にしあげたかった」と、その意図を明らかにしています。

そして彼はまたこう言っているのです。

「この曲を聞く人は、東洋の物語の不思議さを、疑問なしに、素直に受け入れ、その感動をもちつづけていてもらいたい。」と。



新　交　響　楽　団

新交響楽団、新響は名前こそN響の前身の名前と同じですが、純然たるアマチュアのオーケストラで、サラリーマン、学生、主婦など音楽を職業としない 100名の団員から成り、月々 400円の団費と演奏会の収入による独立採算で運営されています。

42年秋のソ連旅行、44年秋の沖縄九州旅行という華やかな活動がある反面、実質的には何の拘束もない任意団体で、週1回2時間半の練習では、全員が常に出席という訳にも行きませんから、極端に言えば常に解体の危機に瀕しています。私達を結びつけるものは一諸にアンサンブルを創るという一点にしかありません。2～3回の練習で演奏会をもつというプロのオーケストラにはできないような、すみずみまで奏きこんだ演奏をモットーとし、毎週の練習自体をも一つの目的とする緊張と充実が団員の共通目標になっています。

新響のもう一つの目的は、オーケストラを団員の自己満足としてでなく、なるべく沢山の人々に演奏を聴いてもらいたいという、演奏団体としての活動です。

そのために、年間の活動計画を早めに立てて、外部からの依頼に応じられる体制をとること、定期演奏会を東京と近県の2回開くこと、東京都アマチュアオーケストラ連盟の設立など積極的な対外活動も併せて行っています。

最近の主な活動

1970年

8月20日　サマーコンサート　東京文化会館
軽騎兵序曲＝ズッペ、天国と地獄序曲＝オッフェンバッハ、ウィンザーの陽気な女房たち序曲＝ニコライ、ハンガリア狂詩曲第2番＝リスト、組曲水上の音楽＝ヘンデル、組曲大峡谷＝グロフェ

11月4日　第20回定期演奏会　共立講堂
序曲「後宮よりの逃走」＝モーツアルト、交響曲第5番＝シューベルト、交響曲第4番＝チャイコフスキー
客演指揮：外山雄三

12月21，23日　第九特別演奏会　共立講堂
弦楽のためのアダージォ＝バーバー、交響曲第9番「合唱付」＝ベートーベン　合唱：合唱団“鯨”
独唱：佐野順子、菊池洋子、金谷良三、田島好一

1971年

1月15日　足立区成人式祝典演奏会　足立区文化会館
交響曲第8番「未完成」＝シューベルト、交響曲第5番「運命」＝ベートーベン

4月22日　第21回定期演奏会　虎ノ門ホール
管弦楽組曲第3番＝バッハ、バイオリン協奏曲＝ベートーベン、独奏：徳永二男、交響曲第3番＝ブラームス　同プロ4月18日　千葉県文化会館

7月1日　合唱団鯨演奏会に出演　渋谷公会館
弦楽のためのレクイエム＝武満　徹、レクイエムニフォーレ　指揮：小林研一郎
レクイエム＝モーツアルト
（指揮は特記以外全て芥川也寸志）

演奏会予定

新響第22回定期演奏会

日　時　10月28日（木）　午後7時開演
会　場　東京厚生年金会館大ホール
曲　目　交響管弦楽のための音楽……芥川也寸志
フルート協奏曲　ニ長調……モーツアルト
交響曲第1番　二長調「巨人」……グスタフ　マーラー
演　奏　指揮：芥川　也寸志　　管弦楽：新交響楽団　独奏者：未定
入場料　S：700円　A：500円　B：300円（全席指席）（プレイガイド発売は9月初旬の予定）

秋と暮の第九演奏会

11月7日(日)　薬科大学合唱連盟主催　指揮：小林　研一郎　会場　郵便貯金ホール　7時開演

12月15日(水)
12月17日(金)　新交響楽団・合唱団“鯨”共催　会場　日比谷公会堂　毎日7時開演

指揮：芥川　也寸志　独唱：大川　隆子（Sop）　秋葉　京子（Alt）
金谷　良三（Ten）　田島　好一（Bar）
入場料　S：700円　A：500円　B：300円　（全席指定）

クラリネット・ヴィオラ　新響団員募集！

メンバー表を見てもわかるとおり、団員はサラリーマン、学生、主婦など構成され、音楽を職職業としている者はおりません。
どなたでも簡単なテストを受けて団員になることができますが、現在とくに、クラリネット、ヴィオラ奏者が不足しています。合奏経験豊富で、ファイトと暇と…の方を歓迎します。

定期練習　毎週木曜日、文化会館リハーサル室
問合せ先　〒160 新宿区須賀町14 大湊ビル4F
新交響楽団　TEL.（357）5255
――但し、平日午後のみ――

新響・登録会員募集中

＜新響の演奏を聴いてください＞

◇新響の演奏会の御案内を毎回お送りします。
◇入場券は一割引させて頂きます。
◇会員証を提示して頂けばプログラムは無料でさしあげます。

申込みは、〒160　新宿区須賀町14 大湊ビル　新交響楽団宛　ハガキにて　郵便番号、住所、氏名（フリガナ）、生年月日、ご職業、もしありましたらご所属の音楽団体、楽器をやられる方は楽器名を付記してください。